

令和4年度施設関係者評価実施報告書

社会福祉法人宝山寺福祉事業団
極楽坊あすかこども園

実施日:令和5年3月27日(月)

場所:極楽坊あすかこども園会議室

施設関係者評価委員:極楽坊あすかこども園愛護会 会長・児童発達支援いっぽ 主任

施設側参加者:極楽坊あすかこども園 園長・副園長 書記:極楽坊あすかこども園 事務

1. 園の教育・保育目標

やさしい心と健やかな身体を育てる。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

保育を必要とする子どもに対する保育並びに満3歳以上の子どもに対する教育を一体的に行い、子どもの健やかな成長が図られるよう、各法令等に則り、養護・教育にわたって一貫性、連続性のある保育実践を行う。また、仏教行事や地域の様々な人たち、園内での異年齢児との交流を通して、信仰心を培うとともに、優しさや感謝、思いやりの心をはぐくむ。

家庭や地域との連携を図りながら園児の保護者支援や地域の子育て家庭の支援を行う。

新型コロナウイルス感染症への対応として、感染症対策を十分に取りながらも、できるだけふれあいや関わり合いを持てる保育・教育を行う。

ICTの活用など、間接的業務の効率化を図り、保育の更なる充実・保護者の利便性向上・働きやすい職場環境を目指す。

新園舎建設を令和4、5年度の2カ年事業として実施する。児童発達支援いっぽを含めた総合施設として、保育・教育から子育て支援まで幅広く地域の子育て支援の拠点として整備する。

3. 評価項目の評価及び委員の意見

評価項目	施設の評価	委員の意見
保育・教育目標について	各年齢の発達段階をふまえ、目標設定を行っている。	園長から内容を説明。委員から特段の意見無し。

	前年度の反省を、職員全員で検討する機会がなかったので、今後は意識して共通理解が図れるようにしていきたい。	
保育・教育について	教育・保育要領について確認をしながら、指導計画の作成を行い、養護と教育の一体的な展開が出来るよう環境を整え、保育を行っている。 素材や用具の使いやすさ、出し入れのしやすさをさらに改善していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・園児全員に十分なおもちゃがいきわたることが希望だが、現状も保育教諭が仲介し、おもちゃをうまく分配している。 ・園児の発達に差があるため、制作物の完成度にバラツキが見られる。現在の保育室は広さが十分ではなく、環境作りが難しい面がある。
食育	園の理念や目指す子どもの姿に基づいて食育計画を立て、実施しているが、コロナの影響で制限した活動もあった(クッキング等)。また、黙食のため楽しい雰囲気を作りづらかった。 給食については、温かい状態での提供が難しいことが多い。来年度の新園舎では、できるだけ良い状態で提供できるように検討したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・パン作り体験(今年度未実施)は園児が食に興味・関心を持つ、非常に良いきっかけとなった。 ・当園での黙食の徹底に驚いた。 ・コロナ禍で園での子ども同士の関わりが少なくなっている。食育の再開に期待したい。
行事	新型コロナによる制限も徐々になくなり、今年度は全ての行事について対面で実施することができた。 ポストコロナ・ウィズコロナを見据えて、行事の再開となるが、保育における行事の持つ意味を精査し、子どもの育ちの場として望ましいあり方を考えていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りが雨で中止になった以外、園行事が実施できて良かった。 行事の学年別開催について、親の立場では子供を落ち着いて見ることができて有難い。子どもの立場では異年齢の子どもとのコミュニケーションの機会が減った。遠足が遠方から近場に変更になったことについて、子どもが刺激を受けて楽しく過ごせるなら、特に距離は関係ない。 ・コロナで行事が減ったことにより、保護者から遠足の実施を望む声が多かった。
経営・組織		
● 分掌・体制	取組内容に応じてプロジェクトや行事の係、施設内研修の担当を編成し、業務分掌を行っている。	

	ICT 機器の導入は進んでいるが、機器の台数の不足や接続環境の不安定さは改善すべき点である。	
● 運営	効率的な会議運営のために、事前に意見集約をして共有するなどの工夫ができるのではないかと。ICT 機器も活用した方がよい。	園長から内容を説明。委員から特段の意見無し。
● 年齢別・クラス運営	年齢ごとに、発達の段階を踏まえて年間計画、月案、週案等の計画を策定している。 異年齢児間交流は計画していたが、新型コロナの影響があり予定通りに実施できないことが多かった。 保育に関する計画・記録については、ICTシステムを活用しながら記録の管理を行っている。	園長から内容を説明。委員から特段の意見無し。
● 保健・安全指導	園内の衛生管理と年齢に合わせた感染症対策を行った。 防災計画に基づき訓練を行った。 保護者が情報として活用できるよう保健に関する情報は、手紙や掲示で伝えた。	園長から内容を説明。委員から特段の意見無し。
情報	職員からは、誓約書を徴し、ICT の取り扱いについて研修を実施している。	園長から内容を説明。委員から特段の意見無し。
施設・設備	運動遊具の出し入れがしにくい状態になっているので、整理するともっと活用しやすくなる。 掲示板の活用について、剥がれたり隠れたりして見にくくなっているものがあるので、改善すべきである。	・若い世代の保護者は掲示板を見ていない人が多いと思う。コドモン配信の方が有難い。愛護会が靴箱に掲示した駐車場利用についてのお知らせも、見ていない人が多かった。 ・保護者の動線にホワイトボードを掲示し、口頭でも確認を呼びかける。
開かれたこども園づくり		
● 施設間交流・連携	新型コロナのため、他施設の児童や高齢者との交流は全く行えなかった。地域の方に園に来ていただき、おはなしの会やポン菓子のお会を設けることができた。	・来年度のポン菓子の実施は原材料費の高騰、ボランティアへのお礼を含めて難しいかもしれない。 どこまで園行事を担当するか、愛護会としての課題

	<p>校区の飛鳥小学校とは、園児の作品を小学校の作品展で展示する機会を設けていただき、見学を行った。また、進級先の小学校とは連絡会を行い情報共有を行っているが、もう少し密な連携を図りたい。</p>	<p>となっている。 愛護会を任意団体とする意見も出た。 ・保護者が日によって変わるため、いっぽには愛護会が存在しない。</p>
<p>● 家庭・地域社会との連携</p>	<p>新型コロナの影響もあり、地域の施設への訪問や行事への参加は十分に行えなかった。 地域の方による「お話し会」を園で行った。また、高齢者のボランティアにより裁縫等のお手伝いをいただいている。</p>	<p>園長から内容を説明。委員から特段の意見無し。</p>
<p>● 子育て支援の推進</p>	<p>子育て支援は、月 1～2 回実施し、園庭開放や工作などのプログラムを実施している。数回外部の講師を招いてのプログラムも実施した。参加者数は思ったほどは伸びず、地域での PR や開催時間・方法の工夫が必要と考えられる。</p>	<p>・地域特性として、老人が増え、子どもが減少傾向にある。地域のつながりが強く、若い世代には子育てしにくいかもしれない。 地域の回覧に子育て支援プログラム案内をのせることは可能。</p>
<p>● 情報の発信</p>	<p>園内向け、園外向けそれぞれで、ICT やホームページを活用して情報発信を行っている。行事等の日程のすりあわせを校区の小学校等とできるようにしたい。</p>	<p>・地域の小学校と入学式、卒業式、運動会等の行事日程を情報共有することは重要。</p>
<p>● 外部評価</p>	<p>県の施設認証制度による認証を受けており、一定の評価は受けているが、第三者評価は未実施である。要望・苦情については丁寧に対応し、愛護会とも連携しながら運営を行っている。</p>	<p>園長から内容を説明。委員から特段の意見無し。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

新型コロナウイルス感染症対策のため様々な制約がある中、保育目標である「やさしい心と健やかな身体を育てる」に沿った保育を実施できるよう、可能な限り子ども同士の関わりや保護者と園との関わりを持てるように取り組んだ。今年度の行事については、全て対面で実施することができたことは、一定の成果があったものと考えている。実施方法を時間帯や学年ごとに分けるなど工夫したことは、感染症対策の目的以外に、ゆったりと子どもと関わることもできたという点で、保護者の満足につながっていた。

5. 今後取り組むべき課題

- ・令和5年度中に新園舎が竣工し、移転を控える中、スムーズに移行できるよう見通しを持った保育を実施する。
- ・子どもの主体性を育む保育について研究を深め、既成の方法にとらわれず望ましいあり方を目指す。